



TITLE:

皆既日食遠征各位に告ぐ：防寒の準備を十分になすこと (日食特輯號)

AUTHOR(S):

水野, 千里

CITATION:

水野, 千里. 皆既日食遠征各位に告ぐ：防寒の準備を十分になすこと (日食特輯號). 天界 1936, 16(182): 283-283

ISSUE DATE:

1936-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167249>

RIGHT:

皆既日食遠征各位に告ぐ

防寒の準備を十分にすること

水 野 千 里

私は去る3月30日神戸出帆の蓬萊丸に乗船、4月2日基隆に上陸、南下して北緯22度30分の高雄迄、天文行脚して、4月29日基隆出帆の高千穂丸に乗込み、5月2日神戸に上陸し歸岡した。臺灣南部は4月1日から夏服、北部は4月29日の天長節から夏服着用、4月28日に臺北の気温は31度8分迄に昇した。浴衣がけて團扇を使ひ尙ほ暑氣を感じた。

それが反對の北方の北海道に於ける皆既日食觀望の爲めに來る6月12日頃に出發せんと欲して、同道の6月の気温を調べて見て、冬服に冬オーパーで渡道することに決した。この注意がなくては寒さに困られると思つて、老婆心迄に遠征各位の注意を喚起する次第である。

本邦各地の平均気温（太數字は最高、斜體數字は最低の値を示す）

地名	經度 (E)	緯度 (N)	高さ m	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
根室	145 35	43 20	26.7	— 5.0	— 5.6	— 2.5	2.8	6.5	9.9	14.3	17.2	15.2	10.6	4.6	— 1.3	5.6
札幌	141 21	43 4	16.9	— 6.3	— 5.4	— 1.6	5.3	10.4	14.9	19.2	20.9	16.3	9.7	3.2	— 3.1	7.0
函館	140 43	41 47	4.0	— 2.9	— 2.4	0.7	6.3	10.4	14.4	19.0	21.6	17.9	11.8	5.7	— 0.1	8.5
青森	140 47	40 49	5.3	— 2.7			7.0	11.8	16.3		22.9		12.0	5.9		9.2
東京	139 46	35 41	5.8	3.0			12.6		20.5		22.9			10.6		14.0
名古屋	136 58	35 10	52.4	3.0		6.9	13.0		21.5		26.6			10.6		14.4
京都	135 44	31 1	42.9	2.6			12.3		21.1		26.6			9.8		13.8
大阪	135 26	34 39	3.0	4.2		7.4	13.2		21.9		27.3			11.5		15.1
岡山	133 56	34 40	6.1	3.5		7.0	12.8		21.6		27.0			10.7		14.6
高知	133 32	33 33	42.1	5.4		9.4			21.7		26.2			12.4		15.6
鹿児島	130 33	31 34	5.4	7.0		10.7			22.3		26.8				9.0	16.7
釜山	129 1	35 6	12.5	2.0			12.3		20.0		25.6			10.1		13.6
臺北	121 31	25 2	9.3		14.8				26.6	28.2						21.7
奉天	123 23	41 48	44.3	— 13.0			8.6		21.7	24.8			9.0			7.2

本表の気温は6月、全年、最高月、最低月の値と根室の9.9に對しその前後のもののみを表はし他はワザと空欄とし見易からしめたものである。此表によつて按ずるときは、本州の11月と同様と考へねばならん。猶ほ分度の皆既中央線の最南の根室でさへこれであるから、その以北の各地では一層低温であらう。これは略ぼ10時の気温であるから、晩前、夕方、夜半の気温は、12位月である。降雨或は濃霧の際はとても夏服や合服では耐えられない。去昭和2年8月に北海道から樺太に旅行した経験から推察すると冬服、冬オーパーが最も適當であらう。8月3日に釧路で冬オーパーを着用して居た人を見た。8月14日樺太の豊原で北風強く、肌粟を生じ、大火鉢を傍に夜具を重ねて寢に就いた寒さが思出される。